

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
長野救命医療専門学校	平成18年3月10日	我妻 忠夫	〒389-0516 長野県東御市中田66-1 (電話) 0268-64-6699			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 成田会	平成9年3月28日	成田 守夫	〒386-0012 長野県上田市中央2-13-27 (電話) 0268-23-3800			
目 的	本学科は、学校教育法第124条並びに救急救命士法に基づき、救急処置に必要な知識並びに技術を習得し、救急現場における人命救助活動を迅速かつ適切に実行できる人材を育成することを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療専門課程	救急救命士学科	3年(昼)	2,780 単位時間 (又は単位)	平成19年文部科学省告示第20号	-
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	2,020 単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1,415 単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人	78 人	4 人	8 人	12 人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有)・無) ■成績評価の基準・方法について 試験の成績により、A (80点以上) B (70点以上)、C (60点以上)、 D (60点未満) でC以上が合格	
長期休み	■学年始め：4月1日～5日 ■夏 季：7月23日～8月20日 ■冬 季：12月23日～1月8日 ■学 年 末：3月16日～31日 計67日間			卒業・進級条件	進級及び卒業の認定は、試験の成績、臨床実習の評価、出欠席状況等について評定のうえ、教員会の議を経て、校長が行う。校長は、所定の課程を修了した者に卒業証書を授与する。	
生徒指導	■クラス担任制 (有)・無) ■長期欠席者への指導等の対応 保護者との電話での連絡を密にするとともに、必要に応じ面談を行っている。一人暮らしの場合、担任による家庭訪問を行っている。			課外活動	■課外活動の種類 救急救命士学生選手権、地域ボランティア(防災訓練・福祉センター)、長野マラソンランナーサポートなど ■サークル活動 (有)・無)	

就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等 消防署・病院・その他一般企業</p> <p>■就職率※180.0%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合※276.2%</p> <p>■その他（任意） 進学者1名 就職者のうち関連分野に就職した者100% (平成28年度卒業者に関する平成29年5月時点の情報)</p>	主な資格・検定	救急救命士国家試験受験資格
中途退学の現状	<p>■中途退学者 3名 ■中退率 4.1%</p> <p>平成28年5月1日在学者 74名（平成28年4月入学者を含む） 平成29年3月31日在学者 71名（平成29年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 就職 3名</p> <p>■中退防止のための取組 教育相談（5月・3月）、三者面談（10月）</p>		
ホームページ	URL: http://www.nagano-kyumeiiryoyou.ac.jp		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本校の教育目標を実現するために、病院・消防署・企業等と連携し、職業に必要な実践的・専門的な教育課程を編成して、授業や実習の方法の改善・工夫に努めるものとする。

医療従事者として求められる人材育成のため、本校では次の4つの視点に重点を置いている。

- ① 教育目標として「確かな専門性」と「豊かな人間性」を兼ね備えた人材を育成することを掲げ、専門教育と人間教育の統合を具体化するよう心掛けている。
- ② 校歌三心「自主・愛・至誠」を学生が目指す観点として強調している。
- ③ 学校運営の方針について「個性の開発」「開かれた学校」「地域活動への協力」「特色ある教育課程の編成」「生活指導の徹底」の視点を重視する。
- ④ 教員としての自覚と資質の向上に努める。

以上を人材育成のテーマとし、教育課程編成委員会と連携して、高度な職業教育を通じて自立した職業人育成を目指せるような教育課程を編成する。医療業界における救急医療の方向性や、新しく身に付けるべき知識やスキルを、実務に携わる専門家の意見を随時取り入れることによって、教育課程に反映し改善させていく。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年8月1日現在

名前	所属
山村 怜	上田中央消防署
田中 健司	たなか整骨院・上田柔道協会
春原 秀一	上田市立第一中学校
山本 由紀子	合同会社A-line
渡辺 誠	東御市立田中小学校
丸尾 泉	上田市立丸子北中学校
上原 一善	丸子修学館高等学校
我妻 忠夫	長野救命医療専門学校
瀧野 昌也	長野救命医療専門学校
檜原 康之	長野救命医療専門学校
中村 哲也	長野救命医療専門学校

(開催日時)

第1回 平成29年6月8日 14:00~16:30

第2回 平成30年2月15日 開催予定

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

【臨床実習】

1. 救急医療および救急医療に関係の深い病院医療の現場体験を重視する。
2. 1グループの学生を時間帯等により複数に分散し、一医療現場あたりの実習学生数を可及的少数とする。
3. 実習指導者による指導監督のもと、多くの患者さんと接し、許される範囲で積極的に医療行為に参加し、あるいはこれを見学して理解と修得に努める。
4. 病院のシステムや各種医療従事者の業務について積極的に見聞を広める。

【救急車同乗実習】

1. 救急活動および救急活動に関係する機関等についての現場体験を重視する。
2. 1グループ3名の学生を時間帯等により複数に分散し、一実習施設あたりの実習学生数を可及的少数とする。
3. 実習指導者による指導監督のもと、できるだけ多くの傷病者に接し、実習要領に沿って積極的に参加またはこれを見学する。
4. 実習施設のシステムや各施設担当者の業務について積極的に見聞を広める。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	1. 救急救命士に必要な観察と処置の実際を体験し、知識、技術を向上させる。 2. 救急で重要な症候と疾患についての理解を深める。 3. 医療機関の機能を学び、救急救命士の役割を知る。 4. 患者さんへの接し方を学び、傷病者への接遇に役立てる。	信州大学医学部附属病院・相澤病院・佐久総合病院・伊那中央病院・諏訪赤十字病院・篠ノ井総合病院・聖マリアンナ医科大学病院
救急車同乗実習	1. これまでの講義や実技訓練で体得した知識・技術を実践し向上させる。 2. 病態生理の理解度を深め、傷病状態についての判断能力を高める。 3. 救急活動の全体と病態経過の全体像を把握する。 4. 救急救命士としての意識の高揚を図る。	長野市消防局・松本広域消防局・須坂市消防本部・上田地域広域連合消防本部・諏訪広域消防本部・佐久広域連合消防本部・岳南広域消防本部・千曲坂城消防本部・上伊那広域消防本部

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

- 一般財団法人日本救急医療財団、全国救急救命士教育施設協議会等主催の各種講習会や研究会への参加。
- 他校の授業計画やシラバスの情報の収集。
- 学科内において上記研修の報告会を行うとともに授業研究の実施。
- 学科長による授業参観、並びに教員間での授業研究会

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 29 年 8 月 1 日現在

名前	所属
石井 重男	東御消防署
石坂 秀司	長野県柔道整復師会
森田 幸雄	小県医師会
勝見 藤一	御代田中学校
佐原 智行	長野県東御清翔高等学校
宮田 暉朗	上田女子短期大学
柳澤 英夫	東御市教育委員会
増田 勝仁	東御市社会福祉協議会
栗原 志郎	東御市田中区
竹内 教子	保護者会
丸田 健也	長野救命医療専門学校

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.nagano-kyumeiiryuu.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.nagano-kyumeiiryuu.ac.jp>

授業科目等の概要

(医療専門課程救急救命士学科) 平成 29 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			科学 1	救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を養う。	1	60	4	○		
○			科学 2	救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を養う。	1	60	4	○		
○			科学 3	救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を養う。	1	60	4	○		
○			英語	救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を養う。	1	60	4	○		
○			人文科学	救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を養う。	1	60	4	○		
○			社会科学	救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を養う。	1	60	4	○		
○			体育	集団で体を動かすことによって、基礎体力を維持するとともに、社会性・協調性・精神的充実感を向上させる。	1	60	2			○
○			礼式訓練・ 体力錬成	礼節を明らかにして規律を正し、和衷共同にして団結を強固にし、確実軽快な部隊行動ができる。将来消防官として職務遂行ができる統制のある規律と精神力、体力増進の基礎を体得する。	1	150	5			○
○			人体の構造と 機能	人体の構造と機能を有機的に理解し、近い将来に学べき臨床的諸問題に結びつけて想起できるようにする。人体の構造と機能は医学の基本中の基本である。本校で学習するすべての専門知識の本当の理解は、本科目を理解してはじめて可能となる。	1	90	6	○		
○			法医学・ 病理学	法医学では、特に救急医療と法医学の数多い接点の実例を示し、法医学的な対処の基本を身に付けさせる。病理学では、解剖学、生理学、病態生理学など既習の科目と適宜関連づけながら、疾患の背後にある基本的変化を理解させる。特に救急の場で遭遇することの多い急性疾患や慢性疾患の急性増悪に重点を置く。	2	60	4	○		
○			健康と 社会保障	救急医療と社会保障、福祉、保険の接点は意外に多い。未曾有の高齢化社会に突入しつつあるわが国で、救急医療システムの最初の部分を担う救急救命士に必要な知識を身に付けさせることを目的とする。	3	60	4	○		
○			救急医療概論	1. 医の倫理や救急医療体制、救命士制度など救命士として、また医療従事者としての基本的な範囲なので確実な知識にする。 2. 災害医療の概念や体制を理解し、トリアージ方法を身に付ける。 3. 薬物動態の概要を説明できる。	1	60	2	○		

			4. 救急救命士の用いる医薬品の薬理作用、使用法、副作用について説明できる。 5. 救急領域で用いられる主要な医薬品の概要を説明できる。 6. 救急医療でよく用いられる検査の概要を説明できる。 7. 救急隊員の感染予防の実際を説明できる。 8. 放射線による障害の概要を説明できる。 9. 放射線事故に対する具体的注意点を述べることができる。 10. 傷病者との人間関係および救急救命士自身の精神衛生と安全管理を説明できる。						
○		観察・評価	観察について必要な知識を習得し、判断、処置へと繋げることができる。	1	60	2	○		
○		救急処置①	救急活動にて処置や資機材を使用するための基礎分野となる。講義にて的確な使用方法を学び、実際に資機材に触れ、訓練を行い、理解を深める。	1	90	3	○		
○		救急処置②	救急活動にて処置や資機材を使用するための基礎分野となる。講義にて的確な使用方法を学び、実際に資機材に触れ、訓練を行い、理解を深める。	1	60	2	○		
○		救急症候・病態生理学①	1. 救急で頻度の高い症候を挙げ、それぞれの病態生理の概要を説明できる。 2. 上記症候の原因となる主な疾患を挙げ、それぞれについてごく簡単に説明できる。 3. 2. の主な疾患における当該症候の特徴を挙げることができる。	1	30	2	○		
○		救急症候・病態生理学②	心肺停止の原因と病態を理解し適切な観察、判断、処置ができる。嘔吐のしくみを理解し、その原因を判断し、適切な処置ができる。	1	30	2	○		
○		救急症候・病態生理学③	1. 救急で頻度の高い症候を挙げ、それぞれの病態生理の概要を説明できる。 2. 上記症候の原因となる主な疾患を挙げ、それぞれについてごく簡単に説明できる。 3. 2. の主な疾患における当該症候の特徴を挙げることができる。	1	30	2	○		
○		救急症候・病態生理学④	救急現場にて病態の理解は必要不可欠であり、その知識がなければ傷病者の観察や処置を的確に行う事は難しい。そのための基礎知識を学んでいく。	1	30	2	○		
○		救急症候・病態生理学⑤	1年次に学習した内容をさらに深め、実際の救急現場での対処法を身につける。	2	30	2	○		
○		呼吸器疾患	1. 主な呼吸器疾患の疫学、病因、病態、症候、経過、予後、観察、処置を説明できる。 2. 主な歯・口腔系疾患について概要を説明できる。 3. 喫煙の健康に与える影響について説明できる。	2	30	2	○		
○		循環器疾患	1. 主な循環器疾患の疫学、病因、病態、症候、経過、予後、観察、処置を説明できる。 2. 12誘導心電図がとれる。 3. 救急で重要な心電図異常が判断できる。	2	15	1	○		

○		消化器疾患	1. 主な消化器疾患の疫学、病因、病態、症候、経過、予後、観察、処置を説明できる。2. 主な泌尿生殖器疾患の疫学、病因、病態、症候、経過、予後、観察、処置を説明できる。	2	15	1	○		
○		神経疾患	1. 主要な急性神経疾患の疫学、病因、病態、症候、経過、予後、観察、処置を説明できる。 2. 救急で問題となる主な慢性神経疾患について簡単に説明できる。 3. 救急で問題となる主な眼と耳の疾患について概要を説明できる。	2	15	1	○		
○		小児・ 妊産婦疾患	1. 小児の成長と発達の概略を説明できる。 2. 主な小児疾患の概要を説明できる。 3. 正常な妊娠と分娩を説明できる。 4. シミュレーターを使った分娩介助ができる。 5. 主な産科疾患の概要を説明できる。	2	30	2	○		
○		その他の疾患 (1)	1. 主な内分泌疾患の概要を説明できる。 2. 主な代謝疾患の概要を説明できる。 3. 主な水分・電解質異常の概要を説明できる。 4. 主な血液・免疫疾患の概要を説明できる。 5. 主な筋骨格系疾患の概要を説明できる。	2	30	2	○		
○		その他の疾患 (2)	1. 主要な精神症候を説明できる。 2. 精神疾患の分類について簡単に説明できる。 3. 主な精神障害の概要を説明できる。 4. 主な感染症の概要を説明できる。 5. 救急搬送で問題となる感染症について説明できる。 6. 高齢者疾患のうち重要なものについて概要を説明できる。 7. 典型的な原発疹を判断できる。 8. 主な皮膚疾患の概要を説明できる。	2	30	2	○		
○		外傷総論	外傷における重症度・緊急度について理解し、観察と判断に基づく現場活動ができる。 外傷のメカニズムやそれに関係する各器官の損傷について説明ができる。	2	60	2	○		
○		外傷各論, 熱傷・異物等	1. 各部位の主要な外傷の受傷機転、病態、症状、処置について説明できる。 2. 熱傷、電撃症、化学損傷、異物、縊頸・絞頸、刺咬症、特殊感染症の概要を説明できる。	2	60	2	○		
○		環境障害、 急性中毒学	1. 急性中毒を分類し、それぞれに含まれる重要な中毒の名称を挙げるができる。 2. 重要な急性中毒の概要について説明できる。 3. 外傷、熱傷、中毒以外の主な外因性疾患を挙げ、その概要について説明できる。	3	30	1	○		
○		早期体験実習	消防活動の根幹をなす、消火、救急、救助活動における基本的な活動要領および各種資器材の取扱いについて基本的な知識と技術を消防署で体験する。	1	45	1			○
○		シミュレーション (基本) 1	個々の資器材について機能と使用方法について習熟する。	1	180	4			○
○		シミュレーション (基本) 2	1学年で習得した救急資器材の取扱いを組み込み、現場活動に局限した単純で短いシナリオに沿ったシミ	2	225	5			○

				ミュレーションが行える。						
○			シミュレーション (応用) 1	1.すでに学んだ観察、処置の技術を迅速的確に應用できる。 2.入電からの活動時間を次第に広げ、最終的には車内収容までを含めたやや複雑なシナリオに沿ってシミュレーション活動ができる。	2	180	4			○
○			シミュレーション (応用) 2	観察、判断、行動の各要素を合理的に実行でき、複雑なシナリオに応じた臨機応変のシミュレーション活動を行うことができる。	3	410	9			○
○			救急車同乗 実習	1. これまでの講義や実技訓練で体得した知識・技術を実践し向上させる。 2. 病態生理の理解度を深め、傷病状態についての判断能力を高める。 3. 救急活動の全体と病態経過の全体像を把握する。 4. 救急救命士としての意識の高揚を図る。	3	45	1			○
○			臨床実習	1. 救急救命士に必要な観察と処置の実際を体験し、知識、技術を向上させる。 2. 救急で重要な症候と疾患についての理解を深める。 3. 医療機関の機能を学び、救急救命士の役割を知る。 4. 患者さんへの接し方を学び、傷病者への接遇に役立てる。	3	180	4			○
		○	山岳救命 コース (講義)	各講義を通し、登山の基礎、登山の基礎技術、日本の山岳・日本アルプスの自然特性、安全登山と山小屋、登山の医学、遭難事例と遭難救助、山岳救助における安全対策、事故と法的責任、危急時対策について専門的な知識と技術を学び、将来山岳救助の一助になることを目指す。	2	30			○	
		○	山岳救命 コース (実習)	春と秋の登山実習、冬の雪上訓練を行うことで、山中や雪中での応急手当てを体験する	2	30				○
		○	国家試験 対策講座	救急救命士国家試験の合格を目指す。	3	325			○	
		○	公務員試験 対策講座	公務員採用試験の合格を目指す。	2・3	300			○	
合計					41	科目		3,465 単位時間 (108 単位)		